

そのため、未整備道路や幹線道路とリンクする町道の整備を推進し、道路ネットワークを形成して円滑な交通体系の確立を図る必要がある。

また、歩行者の安全確保のための歩道の整備などを図るとともに、道路の緑化や修景道路を積極的に推進することも課題の一つと言えるだろう。

一方、公共交通機関については、J R予讃線、民間路線バスが松山市及び宇和島市をはじめ周辺市町村を結び、通勤や通学に利用されている。しかし、近年は利用者の減少などによる運行回数削減によって、特に高齢者や子供たちの日常生活での足の確保が問題となってきた。

今後は交通・道路網の整備と併せて総合交通体系の検討と交通弱者にもやさしいまちづくりが求められる。

J R卯之町駅舎改装

昭和六十三年十月、J R予讃線卯之町駅が、町民の要望を取り入れ、開明学校風に改装された。これは、昭和十六年に建てられた駅舎が老朽化したため、外装と待合室を中心に改装工事を実施したものである。

入り口は唐破風、窓はアーチ型、屋根は淡路島産の瓦でふき替えられ、正面の駅名板は横三メートル、幅三〇センチ、厚さ六・五セ



JR卯之町駅

ンチの宇和松で作られたものが掲げられた。この駅名板に書かれた「卯之町駅」の文字は、萩森鳳仙氏（本名徳一）によってしたためられたものだ。改装後の駅舎については、「文化の里を標榜する宇和町にふさわしい駅になった」と県外客からも好評を得ている。

一一 道路整備

昭和五十二年十二月、県道下宇和橋が開通した。県道としては最後の木橋だったが、幅員六メートルの永久橋に生まれ変わった。

五十四年三月、県道宇和高山線が開通し記念碑除幕式が行なわれた。また同月には、県道宇和三瓶線の永長橋も開通した。

六十二年三月、県道平野坂戸線が開通した。

新三瓶トンネル

六十三年十一月、県道宇和三瓶線の「新三瓶トンネル」が完成した。新トンネルは、西山田の入り口から三瓶町側の出口まで、長さ七一五メートル、幅八・五メートルの二車線。宇和側八八メートル、三瓶側六七メートルの取り付け道路を加えると、全長八七〇メートルとなった。この新三瓶トンネルの開通により、宇和町―三瓶町間のカーブ数もそれまでの四五カ所から一一カ所に、また距離にして二キロ、時間にして車で約七分ほど短縮された。